

私が UBC での留学を通して身につけたこと、学んだことはたくさんある。

まずは英語力だ。出発前に特段英語の勉強をしていなかったの、着いてから2週間くらいは自分の英語力の低さに愕然とした。バンクーバーは移民が多いのもあり、英語以外に中国語やフランス語など第3外国語を話せる学生が多かった。3カ国語が話せる人が多いのに、自分は英語も完璧に話せないのかと落ち込んだのを覚えている。しかし、2ヶ月経つと英語でのコミュニケーションに慣れてきて、海外で住んだことがあるのか尋ねられたり、英語がすごく上手だと褒められたりすることが増えた。語彙が増えたり発音が改善されたりしたのは実感しているが、まだまだ十分ではないと感じる。今回の4ヶ月という短期間の留学では、英語で人とコミュニケーションする際の自信を身につけられたと思う。その自信を基に、これからさらに英語の勉強に励みたい。

二つ目は友人の大切さだ。ひどい風邪を引いたときや悩んで精神の状態が良くなかったときに積極的に助けてくれた友達がたくさんいたことは感謝してもしきれないし、人生に大切なのは友人や人とのつながりだということを強く実感した。今回出会えた人たちとのつながりは何年経っても大切にしていきたい。きっとこの経験は社会人になって何十年か経ったあとでも役に立つと思う。

三つ目は異文化理解とはどうやってするのかということだ。“異文化理解を深める”という言葉が日本で何回も耳にしてきたが、それが一体どういうことなのか、何をしたらそれが達成されるのかということについて私は何も知らなかった。ふわっとした言葉の感覚でしか掴んでいなかったそれが、この留学を通して実体験を伴って理解できた。まず、異文化を理解する、尊重するということには「相手の国籍やルーツを決めつけない」ということが含まれていると思う。UBCでは、遺伝子的なルーツと生まれた国、育った国、大学の所在地が違う人たちとたくさん会った。こんなにたくさんの、ルーツが複雑な人に囲まれたのは人生で初めてだった。見た目がアジア人だからアジア人、ということは当たり前ではなく、見た目がアジア人でもカナダ人、アメリカ人という人はたくさんいた。その人たちと初めて会ったときに、Where are you from? と聞かずに、あなたは中国人？もしくは、ロシア人？などと決めつけて聞くべきではないということ学んだ。歴史的な背景から、ロシア人と思われるのが嫌と感じる人もいるし、見た目がアジア人だからといって生まれも育ちもアジア人と決まっているわけではない。それを決めつけられる方はひどく嫌な思いをする。実際にそのような経験を友達から聞いたことがあるし、自分も決めつけて嫌な思いをした経験がある。歴史的背景を考慮せずに相手のルーツを決めつけることはとても危険だ。相手の気分を害する

リスクがとても高い。相手のナショナリティーを尊重することは異文化理解であると思うし、単一民族国家で育ってきた私が経験として知らなかった大切なことだ。この経験も、将来日本人以外と仕事をするようになったときに生かされてくると確信している。

四つ目は、自分は海外でも生きていけると知ったことだ。出発前は、住むならやっぱり日本でしょうという価値観を持っていて、それが変わることはないと思っていた。しかしバンクーバーで4ヶ月間過ごして帰国した今、日本だけではなくバンクーバーやアメリカなどの海外でも住んでみたい、仕事をしてみたいという気持ちが出てきた。これは自分にとっては意外な変化だった。自分は日本でしか生活できないと思っていたが、海外でもやっていけるということを知ることができた。また、帰国してみて、どの国で生活するにもいいところと悪いところがあって、日本だけがベストというわけでもないなと思った。見慣れない食品をスーパーで選ぶのも、少しやりにくかったが楽しかったし、どこでも生きて行こうと思えば自分は生きていけるのだということを知ることができた。

振り返ってみて、短かったがとても濃く、素敵な人たちに囲まれて本当に幸せな4ヶ月間だった。今回の留学の支援をしてくださった大阪大学の教務の先生方や後藤先生、大竹先生、親には感謝をしてもしきれない。今回の留學生活は私の人生に大きな影響を与えた。今度は自分が他の誰かに良い影響を与えられる人間になれるよう努力していきたい。